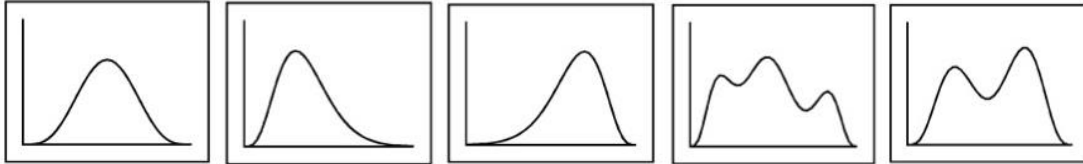


## 結果分析資料の見方

### 調査結果概況

#### 【正答数分布グラフ】

- ・分布の形状から児童生徒の解答状況が分かります。
- ・各学校の集計支援ツールでは、形状だけでなく、県のデータとの比較もできます。



#### 【設問別正答率・無解答率グラフ】

- ・設問ごとの、正答率や無解答率が分かります。
- ・正答率の低い設問、無解答率の高い設問などを見ることで、各学校の課題が見えてきます。

### 設問ごとの解答状況

#### 【解答類型票】

- ・各設問の解答類型別の反応率を見ることで、誤答に目を向け授業改善の視点を探ることができます。
- ・解答類型は、一人一人の児童生徒の具体的な解答状況を把握することができるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのものです。正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況（どこでつまづいているのか）に着目して、学習指導の改善・充実を図ることができます。  
(反応率は、小数第二位を四捨五入したものであるため、「正答」と「準正答」の反応率の合計と正答率が一致しない場合があります。)
- ・誤答の割合が高い類型に注目することで、児童生徒がどんなことにつまづいているのかが見えてきます。

#### 【設問ごとの正答率・過去調査との比較】

- ・過去調査と比較した際に、正答率が上がった設問、正答率が下がった設問、正答率は上がったが正答率が依然として低い設問に注目するなど、様々な視点から分析をすることができます。

### 「課題のある設問の分析」と「授業改善のポイント」

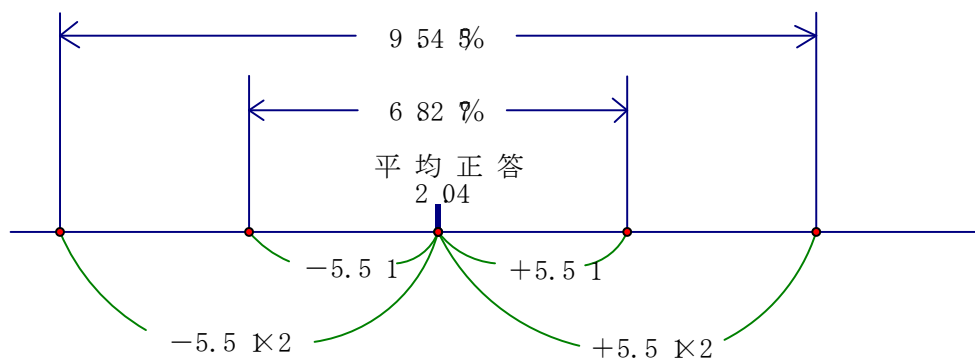
- ・課題のある設問については、以下の内容について記述しています。  
 ■正答 ○正答率 ○無解答率 ○誤答について
- ・課題が見られた設問を基に「授業改善のポイント」を例として示しました。各学校においては、本資料や「調査資料」を用いて、課題となる設問について分析し、授業の改善を図りましょう。

～用語の説明～

「中央値」 集団のデータを大きさの順に並べたとき、中央に位置する値。例えば、対象生徒が121人の場合、その121人を、正答した数が多い順に1番から並べて、ちょうど真ん中の61番の生徒の正答数が中央値となる。一般的には、平均正答数より上か下かで自分の位置を把握することが多いが、中央値を基準にして見る方がより自分の位置をつかみやすい。また、集団同士を比べる場合にも中央値の違いに目を向けることが大切である。

平均正答数と中央値がほぼ一致している場合は、どちらで比べてもあまり変わりはないが、平均正答数と中央値が極端に異なる場合があるので注意する。

「標準偏差」 集団のデータの分布のばらつきを測る1つの尺度。平均値と標準偏差がわかれば、データがどの範囲にどのような割合で散らばっているか（分布）がある程度、明らかになる。図で表すと次のようになる。



例えば、平均正答数が20.4、標準偏差が5.51の場合、 $20.4 \pm 5.51$ （平均正答数±標準偏差）の範囲に全データの68.27%（約2/3）が含まれ、 $20.4 \pm 5.51 \times 2$ （平均正答数±標準偏差の2倍）の範囲内に全データの95.45%（約19/20）が含まれているという意味である。

標準偏差の値が小さければ、分布のばらつきが小さく、標準偏差の値が大きければ、分布のばらつきが大きいことを表している。自分の学校、学級のデータのばらつき具合を数値として知るために用いる。

「最頻値」 一般的には最も度数の大きい階級値を示すもの。本調査では、最も割合（相対度数）の多い正答数のことを指す。

※集団の傾向は、上述の指標となる数値を見ること、正答数分布でそのちらばり具合をみることによって読み取ることができる。

「反応率」 児童生徒の解答を想定した解答類型に該当する児童生徒の解答数の全体に対する割合。

問題番号	出題の要素	解答類型（割合%） ※下線が正答										無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
19 10 (1)②	「家族4人が1人3分間ずつシャワーを使うと、お風呂に入る水の量より、シャワーで使う水の量のほうが多くなる」という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	24.9	15.5	10.1	5.5	9.8	12.6	18.0	0.0	0.4	3.2	

※上の表の○で囲んだ数値が、それぞれの解答類型の反応率（%）